

学級通信で 関係づくり・記録づくり



「今年度は学級通信をたくさん発行することが目標だったのに、現実には…」

4月に気合いを入れて、担任の願いをこめた素敵なタイトルをつけた学級通信が、忙しくてまだ数号しか発行できていない。そんな新米先生も多いのではないだろうか。

学年の仕事や授業の準備など優先させるものが多く、気付いたら自分の学級は後回しです。私も毎日出そうと思った学級通信が、次第に週刊になり、月刊になり、やがて行事の前のお知らせ程度になり、最終的には年に数回しか発行できず、年度末には恥ずかしくて〇号とナンバーをふれなくなった苦い経験があります。

学級通信は、学級経営や保護者との信頼関係を結ぶための大事な手段です。また、自分の実践の記録として残すことができる大切なものだと思います。

以下、私が教わった学級通信作成のコツや、配慮すべき点を紹介します。

〇材料あつめ

常にアンテナをはって、学級通信に載せたい出来事を見つけます。

【デジタルカメラをフル活用】

子どもたちの様子をデジタルカメラで写真に残しておく、後で使えて便利です。写真をたくさん載せると文章が短くて済み、作成が簡単で早く、しかも子どもも保護者も喜んでくれます。また板書や子どもの絵などを撮っておくと、メモの手間も省けます。

【付箋紙にメモ】
子どもの良い意見やエピソード、保護者にお願いしたいこと等は、すぐに付箋紙にメモしておきます。一日の終わりにデジタルカメラやメモを見直して、どれをどのようにレイアウトするか考えます。付箋紙だと貼ったり剥がしたりができて便利です。

【材料は生もの】
伝えたいことがたくさんあるなら、時間がある時に、何号かにわけて作りおきしておくといいでしょう。時間が経ってしまおうとせとかくの材料も使えなくなってしまう。食べ物と同じように「お早めに」使用することが大切です。また、B4が難しい時はB5サイズにすると気楽に作れます。

〇気を付けなければならないこと！

子どもの作品の掲載には配慮が必要です。

【掲載の許可を取る】

一番初めの学級通信や年度始めの保護者会で、「学級や授業の様子を紹介するのに名前や写真、作品等を掲載していきたい」という主旨を説明し、保護者に許可を取りましょう。掲載してから「載せないでよかった」と言われることもごく稀にあるので、事前に確認することが大事です。

それいけ!

新米先生

【掲載は公平に】

上手な作文を紹介したいなと思うと、いつも同じ子になってしまったり、写真にはいつも目立つ子ばかり写っていたりすることはよくあります。しかし、保護者はまず自分の子どもの名前や顔を探します。いつも同じ子ばかり紹介されるとおもしろくありません。児童名簿に、掲載した日付や号数を記録することをお勧めします。必ず全員が同じくらいの回数ずつ登場するように配慮しましょう。

【間違いは直してから】

子どもの作品をコピーやスキャナでとってそのまま掲載する際には、間違いがないようチェックしましょう。また、あまりに他の子と比べて差があると保護者がっかりするので、十分に指導してから掲載するようにします。

○ネタに困ったらこんなアイデアも

- ・子どもたちの短歌や詩の作品（定期的に取組んでおく）
- ・アンケート結果（睡眠時間や学習時間、習い事は保護者の関心事項）
- ・温かいエピソード（良い学級だなというところが伝わる）
- ・ヒーロー紹介（先生はみんなの子のいいところを見つけてくれる。とこいつ安心しなかな）
- ・子どもの手描き作品やイラスト（白紙スペースを埋めるのに役立つ）
- ・座席や係の紹介（写真やコメント付きたと仲の良さが伝わる）

・運動会や学習発表会の、子どもたちの居場所紹介（ここにいます。探してね）

○実践報告や授業記録として

自分の実践を振り返る上で授業記録を取ることが大切です。学級通信に授業記録を載せれば、通信発行も記録の保存も同時にできるので便利です。

【保護者用に加工】

授業全部の記録を載せることはできないので、伝えるポイントをしぼります。保護者の読みやすさを意識して教師の発問や子どもの発言を囲んだり、解説を付けたりします。写真に撮った板書やワークシートや資料、子どもたちの感想等を載せたりすると授業の流れや雰囲気わかりやすいです。

【学級通信を製本して】

私は、年度末に1年間に発行してきた学級通信を製本して、自分のための1冊の本にしています。1年間頑張ってきた自分の学級経営や授業実践の記録、その年の子どもたちの思い出になります。

おわりに…

学級通信を配布する時、子どもたちの「今回は誰が載っているかな」とワクワクしている顔が大好きです。

「あっ、○○ちゃんが載っているよ!」

「これ、おもしろいよ!」

保護者向けの学級通信を真剣にながめる子どもたちの表情を見たり、保護者から、「学級通信を楽しみにしているんですよ!」

「子どもとの会話のきっかけになるから助かっています!」

と声をかけられたりすると、また頑張ってしまうという気持ちになります。忙しさに流されそうな日々だからこそ、子どもたちの輝きや、自分の実践を負担にならない程度に残していきたいですね。

まずは、楽しみながら始めてみましょう。きつと作成するのが苦にならなくなりますよ。

